

# 国語科指導案

## 1 単元名&教材名

単元名 物語の感想をまとめよう  
教材名 ちいちゃんのかげおくり

## 2 単元の目標

- (1) 戦争の悲惨さを空襲の場面やちいちゃんが死んでいく状況を通して個人でとらえ、それを話し合いを通して共有し、友だちとの考え方の違いに気付く。
- (2) 幸せな家族をばらばらにしてしまった戦争について考え、意見を持ち、友だちと交流することができる。
- (3) 話し合ったことをもとにして登場人物の心情をとらえて音声表現をすることができる。

## 3 単元について

### (1) 児童の実態

#### ① 語彙の力

本教材は 15 ページにわたる長編である。情景描写を読み取るために語句の理解は欠かせない。従って以下の語句を知っているかどうか調査した。(数字は人)

語句	意味も言える	聞いたことはある	知らない
かげおくり	3	0	20
出征	5	1	17
はかまいり	18	5	0
かげぼうし	7	3	13
ぼうくうごう	2	0	21

当然のことであるが戦争に関する言葉が出てくる。児童は普段、耳にしない言葉である。したがって授業以外の学習を大切に、丁寧に言葉を説明していきたい。

#### ② 書く力

本学級でノート 2 ページ (1 時間の学習内容) を書き取る時間を調査した。これには個人差があり一番速い子で 7 分である。しかし半数の 15 人の子が 10 分以上かかっている。また 20 分以上かかる児童もおり、1 時間の授業で学習の内容の理解とノートをまとめるという二方向の授業を進めるのは困難である。したがって授業中はワークシートを用い、児童の書く手助けとしたい。

#### ③ 児童の話す・聞く力

##### ア) 発表の仕方について

声の大きさを意識し、教室全体に「話す」という意識をもって発表する児童は極めて少

ない。発表は教室全体に向けて「話す」ということを意識させるように指導中である。

#### イ) グループでの話し合いについて

グループでの話し合いでは、「どういう順番で」「どうやって話して」「どのように話をまとめるか」ということを指導中である。このように話し合いのルールを確立、定着を図っている段階である。

#### (2) 単元の目標に迫るための手立て

##### ①文章に書かれた描写の読み取り

作品の確かな読み取りのためには作品に描写されている形象を丁寧に読み、描写を正確に理解し、豊かなイメージを持つことが必要である。まず作品を読んで一つ一つの単語の持つ意味や、文の表す描写形象を正確に読み取らせ、描写されている事物、形状のイメージを正確に読み取らせるようにする。そのイメージを持つことで登場人物の心の動きや行為に秘められている心情を読み取らせるようにする。

##### ②文章には表れない表現の読み取り

語句では直接描写されていないが、描写の裏に表現しようとしている内容や、作中の人物の心理をつかむようにする。そのためには登場人物の気持ちにより添って考えたり（同化体験）、読者の視点に立って登場人物の気持ちや動きを見たり（異化体験）する読み取りも身につけさせていきたい。

##### ③書かれている内容や登場人物の気持ちををつかむ

描写の読み取りを通して話の筋をまとめ、そこに表されている内容や、作者がこの教材を通して表したいと思っているものは何かを読み取るようにしていく。このような読みの手順を踏まえながら戦争の非情さと現代の環境を比べるようにしたい。

##### ④自分の考えを述べ、友だちの意見と比べる力

自分の意見を表出する前に考えをまとめ、分かりやすい表現で発表できる力を見につけさせたい。そのために本単元ではワークシートに自分の意見を書く欄を設ける。自分の意見を書いてから友だちの話を聞く態度を身につけ、自分の意見と比較し、自分の考えをより深く進化させるような能力を身につけさせたい。

#### (3) 単元構成について

##### ①戦争文学であるということ

本教材は児童が最初に出会う反戦・平和教材（戦争文学）である。戦争文学は小学校6年間を見通しても本教材と4年生の「一つの花」しか収録されていない。優れた戦争文学は戦争の悲惨さ、非人間性を余すことなく表現している。また同時に人間の真実を描き出している。本教材では、ちいちゃんが孤独と空腹に耐えながら「家族に会いたい」「家族と一緒にいたい」という願いをもち続けた姿を人間の真実としてとらえさせたい。

##### ②数少ない文学教材であるということ

この単元の学習目標は「場面の様子を叙述に即して想像しながら読み、感想を深める」とある。しかしながら指導書を見ても学習活動は読書への発展学習と戦争体験者に手紙を書くという活動に半分が割かれ、肝心の読み取りの時間が少ない。また読み取りの時間でも音読に時間が割かれ叙述をじっくり考えさせる時間は少ない。叙述に即して想像しながら

ら読むためには、もっと言葉や表現にこだわり、きめ細かな読みが必要である。前述した同化体験、異化体験を通して読みを深めたり、教師と児童、あるいは児童同士の思いを語ることによりちいちゃんの願いや戦争の非人間性をイメージ豊かにとらえ、表現を深く味わうようにしたい。

#### 4 研究主題との関連

「自ら考え、進んで発表できる子どもを育成する校内研究の在り方」

—国語科において子どもの考えを引き出す教師の支援の研究—

##### (1) 授業の導入部における意欲付け

###### ① 作者の技巧を利用する（物語の導入部の意欲付け）

本教材は題名と書き出しで読者の興味・関心を引く作者の仕掛けが施されている。

「ちいちゃんのかげおくり」という題名で、読者は「ちいちゃんってどんな女の子なんだろう？」という疑問を持つ。そして「かげおくり」という言葉に「かげおくりって何だろう」という2つ目の疑問を持つ。題名で疑問を持ちながら最初の文を読むと「かげおくりって遊びをちいちゃんに教えてくれたのはお父さんでした」と書き出しがあり、それにより児童は「かげおくりって遊びのことなんだな」と理解しながら「どんな遊びなんだろう」と謎解きのように物語に入っていく。この作者の表現の工夫に気がつくような発問構成を組み立てていく。

###### ② 場面ごとに何が書いてあるかイメージ豊かな読みを心がける（授業ごとの意欲付け）

1時間の授業ごとに作者がどのような工夫を凝らしているか「視点、話の筋、構成、場面」の4つの観点に着目できるような発問を心がける。

##### (2) 児童自らが表現するための工夫

###### ① 自問自答により読みを深める

教師の問いかけの工夫をする。全体に向けて「みんな、どう思う？」ではなく「君は(あなたは)どう思う？」というように教師と児童の一対一の対応になるように発問を工夫する。そして児童は「ぼくは(私は)・・・だと思うんだけど、〇〇さんはどう思いますか？」という応答しあえるような表現の仕方ができるように機会をとらえ具体的に指導する。

###### ② 主体的に思考する場を設ける

自問自答して導き出した答えを前述したように友だちと応答し合うことにより、協同の読みになるようにする。そしてその過程を通して自分の最初の答えを見直し、新により深い考えを導き出すような学習習慣を身につけさせる。

###### ③ ノートを活用する

書く力を鍛えたい→だからノートをきちんと取らせたい。まずは「板書を正しく写すこと」から始めたい。そのためには教師の板書計画を必ず行う。具体的には題名→めあて→学習活動→振り返り という一連の流れのある板書を心がける。次に自分の考えをメモする力、振り返りを文章で書けるような力を育てたい。本単元では以上のようなノートの書き方を理解させるために、授業の流れを書いたワークシートを活用する。そして徐々にワークシートからノートに移行していくようにさせたい。

④ 読み取ったイメージを絵にする

読み取った場面の情景を絵にすることにより、子どもの読みの深さを見取るようにする。絵がうまい下手ではなく、文に表現されている情景や人物の生活のありよう、当時の情景をきちんとイメージできているか、子どもの描いた絵から読み取りたい。

(3) 学び合いの場の設定

① 目的を持った学び合いの場の設定

意見を深める場か、交流する場か、学び合いの目的は必ず教師側の意図を明確にして行う。学び合いの重要度を意図的に教師側で ・意見の多様性を認め、主題に迫るための学び合い ・意見の多様性に触れる学び合い ・交流のための学び合い というように分類しておくようにする。そして授業の過程でどの学び合いが必要かを位置づけて学び合いを設定する。そして学び合いに入る前には必ず全員が話し合う課題を確認し、自分なりの答えをもってから学び合いの場に移らせたい。そして多様な意見に触れることにより、自分の考えを見直し、より練り上げた意見にたどり着くようにしたい。

(4) 言語活動を充実させる授業以外の工夫について

○ 作者を知り読書に結びつける

物語教材では必ず作者名が記されているが、作者まで授業で触れている機会は少ない。本単元では特に作者のあまんきみこ氏について授業で紹介したい。作者を紹介することで、より深いかげおくりのイメージが児童に焼き付くだろう。また他のあまんきみこ氏の読書にも広げ読みに結びつけるようにしていきたい。また、作者を意識することは4年生の「ごんぎつね」の新美南吉、5年生の「大造じいさんとガン」の椋鳩十と続く文学史の先駆けとなり中学校の国語教育にもつながるものである。

5 単元の指導計画

次	時	目標	学習活動	評価方法
1	1	題名読みから題名の仕掛けに気付く。	題名から内容を予想して思ったことを発表する。	ノートによる記述
2	2	1の場面を読み、ちいちゃんの家が仲よくかげおくりをしている様子をイメージし、共体験する。	・かげおくりを記念写真と言うお父さんとお母さんの気持ちを考える。	授業中の発言、振り返りで書くノートからイメージしているか把握する。
	3		・お母さんのつぶやきから戦争の状況をおさえ、緊迫した状況であることを想像する。	
	4	2の場面を読み、空襲の様子をイメージ化し、必死になって逃げるちいちゃんに共体験する。	・必死で逃げるちいちゃんの様子や気持ちを叙述から理解する。 ・独りぼっちになったちいちゃんの願いを確認する。	お母さんに会いたいというちいちゃんの気持ちがイメージされているかノートで把握する。
	5	3の場面を読み、お母さんに会いたいというちいちゃん	・ちいちゃんの変わらぬ願い「家族に会いたい」が繰り返されて表現されている	ちいちゃんから奪ったものは家、お母

		やんに願いの強さをとらえる。	<p>ことをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争によってちいちゃんから大切なものを奪い取っていることをつかむ。</li> </ul>	さん、お兄ちゃんであることを把握しているか発言からつかむ。
	6 7 本 時	4の場面を読み、幻覚の中でやっと家族に会えた場面を共体験し、ちいちゃんの願いの強さと戦争の非人間性をとらえさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1の場面と4の場面のかげおくりで同じところ(類比)と違うところ(対比)を見つける。</li> <li>・ちいちゃんの気持ち(内の目)とそんなちいちゃんにかける言葉(外の目)を考える。</li> <li>・戦争がちいちゃんから奪ったものを考える。</li> </ul>	ちいちゃんに同化した読み(内の目)と外部からちいちゃんを見つめる読み(外の目)の2視点で読んでいるか、授業中の様子とノートからつかむ。
	8	5の場面を読み、戦争が終わり平和になっていることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争はちいちゃんから奪ったものに気付く。</li> <li>・死ぬまでずっとちいちゃんが持ち続けたものをとらえる。</li> </ul>	ちいちゃんが持ち続けていたものをとらえているか、ノートで把握する。
3	9	本教材の主題と理想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次の学習をもとにして本作品の主題をまとめる。</li> </ul> <p>お父さんの願い、ちいちゃんの願いをまとめる。そして戦争がなかったらちいちゃんの未来はどうなっていたかを想像して書かせる。</p>	ちいちゃんの未来を考えさせることで、戦争の非人間さをとらえているか記述により把握する。

## 6 展開

### (1) 本時の目標

○ちいちゃんが衰弱している様子をとらえ、死が迫っていること、そんなちいちゃんがかげおくりを通して何を願っているかを個人でつかみ、友だちと共有する。

○1の場面のかげおくりと比べ、その違いをとらえ、家族に会いたい気持ちがかけおくりの行動に表れたことを理解する。

○ちいちゃんに同化した読み(内の目)と客観的に描写を通した読み(外の目)を区別して読み取ることにより、作者の描き出す美しい描写と本当に伝えたいことを理解し、友だちと話し合いを通して考えをまとめることができる。

(2) 展開

★人権教育上の配慮

学習活動	時	指導上の留意点	評価基準	取り上げる表現
1 4の場面を読む。 2 本時のめあてをつかむ(個)	5		・本時の課題をつかんでいる	○ちいちゃんの様子 ・暑いような、寒いような等 ○青い空からふってきました ○ふらふらする足をふみしめて立ち上がると ○体がすうーっと空に吸い込まれていく ○小さな女の子の命が
めあて ちいちゃんが最後まで願っていたものはなんだろう				
3 教科書「お母ちゃん、お兄ちゃん。」の記述までちいちゃんの「内の目」になって考える。(個)	7	・ちいちゃんの様子が分かる描写にサイドラインを引き、衰弱していることを理解させる。(外の目) ・「ふってきました」という表現からちいちゃんは幻聴を聞いていることをつかむ。	・教科書に的確に線が引かれているか(観察)	
4 4の場面のかけおくりと1の場面のかけおくりを対比して類似点と相違点を考える。(個→グ)	8	・1場面は現実のかけおくりであり、4の場面は幻のかけおくりであることをつかませる。 ・1場面を想起する。「記念写真」ということを想起させる。	かけおくりの違いをつかんでいるか音読で評価する	
5 幻のかけおくりをするちいちゃんを見てどう思うか考え、交流する。(個→グ)	8	・ちいちゃんから離れ客観的な読み方ができるようにする。ちいちゃんの今の様子を客観的にとらえる。 ・4人組のグループで意見の交流をできるようにする。		★ グループ学習では全員が自分の意見を述べられるように、個の段階で自分の意見が書かれているか注意する。
6 空の上で家族に会えたちいちゃんの気持ちを考え、ノートに書く。(個→グ)	8	・「きらきら」「笑いながら」「花畑」からちいちゃんの気持ちが嬉しいことをつかむ。 ・交流を通してちいちゃんの願いに気付くようにする。	ちいちゃんから見た景色の叙述に注意してちいちゃんのお気持ちを読み取っているか。	
7 戦争がちいちゃんから奪ったものは何かをまとめる。(個)	5	・戦争はちいちゃんの命まで奪ったことを理解する。 ・ちいちゃんの「家族と会いたい」という気持ちは戦争でも奪えなかったことに気付かせる。		
8 本時の学習をまとめる。(個)	4			

